

石川県剣連だより 剣風春秋

第 25 号
発行
石川県剣道連盟
広報委員会



新任教師時代の思い出

七尾市剣道連盟会長 清水 祐司

私は昭和四十一年、大学卒業と共に神奈川県立相模原高校に赴任しました。当時人口三十万の規模に普通科高校が無く、地元の期待に答えて初めて出来た普通科一学年七クラス、創立三年目の新設校でした。着任と同時に学校長より『剣道部の顧問をして欲しい。』との言葉を受け、思わず耳を疑いました。格技場は勿論、体育館すら未だ無い新設校に剣道部が有るなんて……？そしてその剣道部が出来た理由を聞き、更に感激しました。学校創立当時部活動を設定するに当り、剣道部は勿論構想には入っていませんでした。ところが入学式当日、防具を担いで登校した一生徒が校長室を訪れ、剣道部設立を熱心に懇願したそうです。学校

長はその熱意に打たれ、道場や備品に関する補助の保証は出来ぬが創部だけは許可しようと約束してくれたそうです。頑張った生徒も然る事ながら、学校長の腹の太さに驚き入ったものです。

兎に角、剣道部設立の理由の驚きと、自分の学生時代の経験が生かせるという喜びで私は心が震える思いでした。自ずと何とかしてやらねばという決意が込み上げて来た事を思い出します。

私の着任当時、生徒は屋上でズツクを履いて練習していました。ただ、学校付近にも適当な道場が無かったのが、先ず生徒を屋上から将来の格技場予定地へ下ろしました。そしてゴロゴロしている砂利を皆んなで何日も掛けて排除し、

何とか地均しをして素足で稽古を始めました。尤も、半年以上は地中から小石が浮かび上って来て、私も含めほとんどの生徒の足の裏は切傷が絶えませんでした。でもズツクは禁止！思えば理不尽であったかも知れません。

そんな中、夏には行き成り合宿を企画しました。寝具、鍋、食器等は持ち寄り、宿泊は理科室、食事作りは一般生徒のボランテニア。何しろ我武者羅でした。日中の暑さの中、熱中症にかかる子も幾人かいました。又、面の下の汗に、関東ローム層の細かく黒い土埃りがこびり付き、稽古の後の皆んなの顔は真黒でした。それを互いに指差し合い、笑い合ったものです。冬の朝には5cmの霜柱の出来る土の上で、一週間の寒稽古を実施しました。一年半後に体育館が出来ましたが剣道部には使用の余地無く、漸く三年後に格技場が完成、晴れて自分達の道場を持てる様になりました。砂利の中や霜柱の中の事を思えば天国でした。

それにしても、その様な悪条件の下、皆んな良く付いて来てくれたと思います。ほとんど退部する者も無く、寧ろそんな厳しい状況に耐えた事が学年を越え、十年の

間で部員間の絆を年々強くして行つたものと思います。その結果、男子は百校近い出場校の中で、ベスト8を幾度か堅持する様になり、女子もインターハイに出場する事が出来ました。これも砂利埃りの中で頑張った先輩達の直向きな努力が実を結んだ物と信じます。

私が石川へ戻った後も、私を招く声が掛ければ何時でも喜んで神奈川へ出掛けます。又、彼等も色々なグループで石川の方へ遊びに来てくれます。中には教師になった連中を中心にグループを作り、もう何度も七尾へ稽古に来てくれます。七尾の会員達ともしっかりと心が通い合い、次の訪問を楽しみにしています。剣道を通しての心の繋がりと、和の広がりや誠意に有難く思うと共に、この和の広がりがもっともっと大きくなる事を念じている次第です。

この度、剣連だよりに寄稿させて頂くに当り、剣道界に然したる貢献も無い私ですので、神奈川での僅か十年間の新米教師時代を想い出して認めさせて頂きました。その執筆中、忘れ掛けていた若き我武者羅な自分を思い出し、懐かしさに時折筆を止めた次第です。

私の稽古に対する心構え

居合道五段 山口 春夫

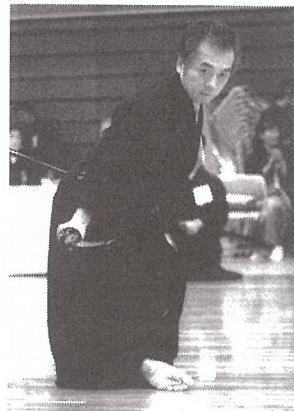
私と居合道の接点は、昭和四十四年頃に愛知大学剣道部員として居合道の全国巡回指導としてこられた某先生方に木刀で一週間位指導を受けたことが出会いでした。

剣道とは中途半端なまま中断してしまい、社会人として家庭を持ち、子供を育てつつ、バブル期の大抵の大人が経験するスポーツジム通いやゴルフに興ざめながらも何時も何か物足りなさを感じておりました。

そのような時に、平成五年の秋頃、ドイツ人で当時金沢大学の留学生（現金沢大学准教授）であったビットマン夫妻（特にシルビア女士）が外国人でありながら石川県立武道館で居合道修行を積んでいるとの新聞記事を見て武道としての居合道があることに気付き、満四十四歳を迎えた平成六年正月に居合道を始めようと誓いを立てました。そして、県立武道館を訪ね居合道教室に参加させて戴き、今日まで居合道の修行を続けられてきたことは、ひとえに居合道範士

武田清房先生をはじめとする諸先生方の教えによって知ることが出来た居合道の奥深さが私の心を居合道に引き寄せた結果と自身納得している今日です。

中年のおっさんである私が、居合道の修行をなすにあたり、悩んだのは、遅れて始めたものが先達者により近づくために何を心掛けて稽古すべきかということでした。



技前の向上には誰しも相当の修業年限を必要とするは必須と思われたことから、居合道と言う武道を修練するには日本古来の武道精神の根本に流れる大和魂を基本に、個々人に備わった人格とか風格とかを高めることが上達の一要素となるのではと感じられ、また何かの機会に先生方に伺ったこともあって、それならば中年としてのそれまでのつたない人生経験を居合道に重ねて稽古を積み上げ、最高位の範士八段は夢であつても

せめて五段位にはなろうと決意し、体力や技術は伴わないながらも心身を正しく鍛えることを心掛けて稽古に努めて参りました。

私の場合、稽古（修行）を実践するにおいても、ここ十年位は座右の銘として、「稽古とは一より習い十を知り、十よりかえる元のその一」という茶人千利休が表した言葉を大事にしております。

このことは、稽古は「一、二、三、十」と順を追って学ぶが、次には再び元の「一」に戻って改めて習う、初めのその一と十から戻って重ねて一を習うときとはその人は全く変わっており、同じ「一」ではあつても一歩前進した「一」であるから、諦めずに繰り返して習うことによって自然と求める道（居合道）の神髄を体得することができるのであり、その稽古を実践する課程が重要であると言ふことを教えているものと考えております。生来が「三日坊主」の私も「三日坊主」も何度か繰り返せば「三日坊主」ではなく、この不遜な考えを抱きながらも、この言葉を師とし、諸先生方を範と

して稽古を重ねることを自らの居合道を育てる糧として、自らに鞭打って稽古嫌いの私の心を奮立たせて今も道場へ通っております。

幸いにも、本年十月二十四日に開催される全日本居合道大会に五段の部の石川県選手に選考された誉れを好機に石川県居合道の名を高める一助として更に稽古を重ね、また、当初抱いていた目標を上方向修正して六段審査を突破すべく稽古嫌いを棚上げして稽古に邁進し目的を達したいと決意しています。

ところで、先生の四方山話の中の一つに、武道は道場のみが稽古場ではなく、日々の生活即修行の場所であり、座するときは常に気を四方に配り、背を曲げて座するのではなく姿勢を正し、能役者が歩むが如く滑るようにして歩み、鏡に映る自身の姿勢を見て肩に力が入っていないかと点検し、道を歩むときも無造作に歩くのではなく、刃りに注意を払い隙なく例え自動車飛び込んできても咄嗟に回避できるような心配りを持って日頃から行動する心構えを持つことが修行上達の道である、ご薫陶を受けたことがあります、修行の参考になればと思ひこの機会に紙面でご紹介させて頂きます。

インタビュー

金沢高校三年

土谷 有輝

藤井 大

第五十六回全国高等学校
剣道大会で、個人戦
ベスト十六まで進出
した両選手に聞く。

聞き手 広報委員会

Q インターハイ出場を目指して
厳しい稽古や遠征試合を続けて
来られたと思いますが、心に残
る事、またインターハイに出場
しての感想をお聞かせください。
土谷 遠征に行き、強い選手の試
合を見たり対戦してみると、全
国の強さを肌で感じる事ができ、
盗みたい技がたくさん目につき、
試合運びなど大変勉強になりま
した。インターハイの結果は自
分では満足していませんが、精
神的にも体力的にも充実して望
む事ができて良かったです。
インターハイは誰もが憧れる大
会で、それに出場した自分は本



当に幸せだと感じています。

藤井 長崎県島原での遠征で、九
州学院高校や島原高校と試合を
した時、しかけの速さや技術の
うまさには、すぐく刺激を受け
ました。インターハイ個人戦4
回戦の茂田選手(九州学院)と
の試合では、自分の攻めがしつ
かり相手に効いていて、相手の
攻めに対してもしつかり反応で
きていて、その掛け合いの時は
楽しかったです。結果は負けで
したが、インターハイという舞
台で剣道ができてすごく嬉しか
ったです。

Q 剣道が強くなるために努力し
ていることは?

土谷 毎日の部活を頑張る、それ
は当たり前ですが、それプラス家

では素振りをしたりランニング
をしたり、学校以外での練習を
継続することも大切で、それが
勝ちに繋がると思っています。

藤井 人と同じことをやっていて
も強くなるかと思っている
ので、同じ稽古メニューの中で
工夫して常に厳しくやっています。
家では走ったり素振りをしてい
ます。

Q 剣道が一番楽しいと思う瞬間
は?

土谷 それはやっぱり優勝した瞬
間です。その一瞬で辛かった時
の自分が吹き飛びます。

藤井 やはり試合で勝った時は楽
しいです。嬉しそうです。努力の
大きさが大きければ大きいほど、
試合で勝った時は楽しいです。

Q 剣道が日常生活に活かされて
いる事、または活かそうとして
いる事は?

土谷 剣道はやっぱり礼儀が大切
になってるので、普段の生活
でも挨拶や言葉使い、行動など
に活かされていると思います。

藤井 私は剣道だけ頑張ろうとは
思っていません。剣道と日常生
活は繋がっていると思います。
私は人に対する挨拶はもちろん
の事、服装や、掃除をしつかり

やるなど、当り前の事を当り前
にやろうと心がけています。

Q これからの課題は多いと思っ
ますが、特にどんな所に力を注
いで行きますか?

土谷 どんな場面になっても自分
を見失わない精神力、そして技
を前に出して行けるように常に
中心を取る事を意識して、好機
を逃さないようにやっていきたく
いです。

藤井 全国の強豪選手と剣を交え
てみると、どんな場面でもその
状況に応じて技を出してきます。
技の引き出しが多いと思いました。
私の得意技は面ですが、技の種
類を増やし、自分の引き出しを
多くしたいと思っています。

ありがとうございました。

訃報

津雲 達雄先生

平成二十一年四月十二日逝去

(享年七十二歳)

県剣連の副理事長・副会長の要職
を長年務めて剣道の普及発展に貢
献された。昭和五十三年四月県教
委から石川県立武道館建設の派遣
を受け、武道館建設に尽力された。
生涯剣道を目標に自己研鑽に励み
後輩の指導を熱心に続けられた。

無声館 館長 太田 絃人

うにしている。

県下の剣道場・剣道教室めぐり

蕪城剣道スポーツ少年団

創設 昭和三十四年九月
創設者 太田 真一

初代の太田館長は、金沢市剣道

○六年生で一級の力をつけること。
【保護者からのご意見】
○仲間を大切にし、面倒見が良くなった。

創設 昭和四十年四月

【創設時の状況】

○大きな声の発声・挨拶ができるようになった。身体が丈夫になった。

蕪城小学校教諭の野島先生を中心に地域剣道愛好家の方々の協力で地域の小中学生を対象にスポーツ少年団として創設されました。蕪城小学校を中心に、多くの子供が参加し、地域の方と一緒に早朝稽古に汗を流しました。出身者では大田政信先生、角田肇先生が全日本選手権に出場され、両先生を目指し稽古に励んでいます。

と基本稽古が中心ですが、色々な稽古方法を取り入れ、子供達に考えさせることで、個性を磨き、子供達が元氣よく自己表現できる様な指導を心掛けています。また、父母会の協力を頂き、剣道以外にも地域の清掃など幅広い活動を行っています。

【保護者からのご意見】

蕪城では、剣道を通じ、

も昭和二十八年一月、昭和四十二年十二月まで務められました。昭和天覧試合（昭和四年五月）に旧第四高等学校生として正二刀で活躍された方であり、現在長男の絃人館長が二代目を引き継がれています。無声館と言う名前の由来は、孫子の兵法虚実編の中にある「神なるかな神なるかな声無きに至る」から採られたものです。



○入門時はいつも泣き虫で困ったが、六年生で一級に合格できた。
○しかられる体験を度々得たこと。

【剣道を習って良かったこと】

○礼儀作法・正座がきちんとできるようになった。

○おなかが減るようになった。

○色々な運動が楽しくなりました。

○おれない負けな

い心ができた。

○努力は絶対に向

らざらないとい

うことを知った。

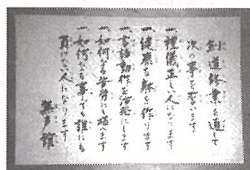
○仲間は大切だと

いうことを学べた。いいライバルができた。

○自分の剣道具を整理し、大切に

することを覚えた。

殿村・塵浜・荒木君より



技だけでなく心の指導を頂いています。先輩後輩・試合相手・先生・家族など様々な人間関係の中で、相手の気持ちを考えて行動できる人間に育って欲しいと願っています。
【剣道を習って良かったこと】
○厳しいことでも我慢強く耐えられるようになりました（六年生男子）
○腕や足腰が強くなりスタミナが つきました（六年生男子）
○礼儀が正しく、心が強くなりました（五年生女子）
○挨拶や言葉使いを学校や近所で褒められました（五年生男子）

稽古日 週三回（月水金曜日）

時間 一時間三十分

指導者 中剛 錬士六段

【指導方針・重視していること】

子供達の心と体の成長を一番に

考え、「挨拶をする。友達を大切に

にする。約束を守る。整理整頓を

する。勉強をする」を団員の約束

事としています。指導は礼儀作法

平成二十一年度(四月、八月)
主な対戦成績

【県内大会記録】

◎第46回石川県居合道大会

4月5日(日) 石川県立武道館

〔段外の部〕

最優秀賞：中村 勝弘
優秀賞：魚住 賢志

〔初段の部〕

最優秀賞：吉田 知一
優秀賞：石井 義夫

〔二段の部〕

最優秀賞：嶋崎 奈緒
優秀賞：源 美奈子

〔参段の部〕

最優秀賞：二木 有紀江
優秀賞：高柳 陽一

〔四段の部〕

最優秀賞：太田 貞夫
優秀賞：石田 由紀

〔五段の部〕

最優秀賞：山口 春夫
優秀賞：望月 隆

〔六段の部〕

最優秀賞：作田 剛也
優秀賞：ビットマン・ハイコ

◎第57回石川県都市対抗剣道大会

4月19日(日) 石川県立武道館

〔参加チーム〕

輪島市・七尾市・鹿島郡・羽咋郡市
河北郡市・金沢市・石川郡・白山市
能美郡市・小松市・加賀市
優勝：金沢市 準優勝：河北郡市

◎第56回石川県高校春季剣道大会

4月26日(日) 金沢大学体育館

〔男子団体〕

優勝：金沢高校
準優勝：航空石川高校

第三位：羽咋高校・金沢市工高校

最優秀選手賞：土谷 有輝(金沢)

〔女子団体〕

優勝：星稜高校
準優勝：金沢高校

第三位：金沢東高校・桜丘高校

最優秀選手賞：澤田 有(星稜)

◎第43回石川県勤労者春季剣道大会

5月17日(日) 石川県立武道館

〔団体〕

優勝：啓武館A
準優勝：新化館B

第三位：新化館A・北陸綜警A

〔男子個人〕

優勝：佐藤 博之(北陸綜警)

〔女子個人〕

優勝：源 紗季(北陸綜警)

◎ゆうゆう石川スポーツ交流大会剣道競技

4月29日(祝) 石川県立武道館

〔64歳未満の部〕

優勝：大浦 外志男
準優勝：直喜 秀孜

第三位：斎藤 實・竹野内 孝穂

〔65歳以上70歳未満の部〕

優勝：船木 一璋
準優勝：安原 重信

〔70歳以上の部〕

優勝：組橋 貞夫
準優勝：長田 龍馬

第三位：宮野 守治・金谷 啓次郎

〔最高齢者賞〕井上 伊之助(83歳)

◎第25回石川県女子剣道大会

5月24日(日) 石川県立武道館

優勝：華嘩会
準優勝：小松剣友会
第三位：森華会・啓武館A

◎第1回全日本都道府県対抗女子優勝剣道大会石川予選

5月24日(日) 石川県立武道館

〔石川県代表選手〕

先鋒 長塚 美可子
次鋒 佐藤 朝美

中堅 下村 あずさ

副将 岩脇 律子

大将 宇波 真奈美

◎平成21年度石川県高校総合体育大会剣道競技

6月4日～6日 羽咋体育館

〔男子団体〕

優勝：星稜高校
準優勝：金沢高校

第三位：金沢市工高校・桜丘高校

〔男子個人〕

優勝：土谷 有輝(金沢)

〔女子団体〕

優勝：星稜高校
準優勝：桜丘高校

第三位：金沢高校・羽咋高校

〔女子個人〕

優勝：長塚 美可子(金沢)

◎第4回石川県都市対抗少年剣道大会

6月27日(土) 石川県立武道館

〔小学生の部〕

優勝：河北郡市A
準優勝：羽咋郡市A

第三位：金沢市A・金沢市B

〔中学生の部〕

優勝：河北郡市A
準優勝：金沢市A

第三位：河北郡市B・羽咋郡市B

◎第48回全日本女子剣道選手権大会石川予選

6月28日(日) 石川県立武道館

〔石川県代表選手〕
藤田 涼香(病院職員)

◎第52回石川県中学校体育大会剣道競技

7月19日～20日 松任総合体育館

〔男子団体〕
優勝：鹿西中学校

準優勝：宇ノ気中学校
第三位：松任中学校・川北中学校

〔男子個人〕

優勝：柘田 拓真(城南)

〔女子団体〕

優勝：羽咋中学校
準優勝：津幡中学校

第三位：鹿西中学校・森本中学校

〔女子個人〕

優勝：生瀬 早希(津幡)

◎第61回石川県民体育大会剣道競技

8月9日(日) 能登町内浦体育館

〔一般男子〕

第一位：かほく市 第二位：白山市
第三位：金沢市・輪島市

〔一般女子〕

第一位：内灘町 第二位：かほく市
第三位：金沢市・小松市

〔壮年男子〕

第一位：白山市 第二位：野々市町
第三位：加賀市・小松市

〔個人壮年女子〕

第一位：羽咋市 第二位：かほく市

◎第57回全日本剣道選手権大会石川予選

8月15日(土) 石川県立武道館

〔石川県代表選手〕

米山 友博(石川県警察)

◎第41回石川県少年剣道錬成大会

8月2日(日) 石川県立武道館

〔四年生の部〕

第一位：木村 勇貴
第二位：桜吉 威風

第三位：北井 湧之輔

〔五年生の部〕

第一位：中越 泰士郎
第二位：塩野 風瑠

第三位：魚住 亮太・中川 裕介

〔六年生の部〕

第一位：吉野 宗太郎
第二位：加藤 浩太

第三位：松柳 瑠晟・下池 真平

◎第53回 石川県別剣道選手権大会

8月30日(日) 石川県立武道館

〔男子初段の部〕
第一位：西谷 稜介

第二位：坂口 尚
第三位：山本 康寛・畑 完

〔男子二段の部〕
第一位：蔵本 開

第二位：川部 宰也
第三位：窪田 祥平・梅木 勇輝

〔男子三段の部〕
第一位：半田 貴章

第二位：大野 優樹
第三位：袴田 隼也・福岡 竝晃

〔男子四段の部〕
第一位：篠井 皓太

第二位：上登 喜文
第三位：源 竜一・三輪 竜大

〔男子五段の部〕
第一位：竹田 洋之

第二位：中村 直紀
第三位：星野 敏之・山下 宏光

〔女子初段の部〕
第一位：澤田 有

第二位：森田 結衣
第三位：室屋 晴佳・谷内 口穂

〔女子二段の部〕
第一位：山本 早紀

第二位：山本 美珠稀
第三位：豊島 菜摘・宮下 莉紗

〔女子三段以上の部〕
第一位：滝下 彩乃

第二位：木原 菜摘

【全国大会・県外等の記録】

◎第57回全日本都道府県対抗剣道優勝大会

4月29日(祝) 大阪市中央体育館
〔石川県代表選手〕
先鋒 藤井 大
次鋒 久保 洗旗
五将 佐藤 博之
中堅 石井 敬
三将 米山 友博
副将 藤井 勝司

大将 本橋 克也

◎第47回 北信越高等学校剣道大会

6月20日～21日 長野市ホワイトリング
〔男子団体〕
第三位：金沢市工高校

〔女子団体〕
第三位：星稜高校

〔男子個人〕
優勝：土谷 有輝 (金沢)

準優勝：藤井 大 (金沢)

◎第30回 北信越中学校剣道大会

8月5日 新潟県
〔男子団体〕
準優勝：鹿西中学校

〔女子団体〕
準優勝：羽咋中学校

◎第1回全日本都道府県対抗 女子剣道優勝大会

7月18日(土) 日本武道館
〔石川県代表選手〕
先鋒 長塚 美可子
次鋒 佐藤 朝美
中堅 下村 あずさ
副将 岩脇 律子
大将 宇波 真奈美

◎第56回 全国高等学校剣道大会

8月3日～5日 大阪市舞洲アリーナ
〔男子団体〕
星稜高校 予選リーグ敗退

〔女子団体〕
星稜高校 予選リーグ一勝一敗
で決勝トーナメントへ出場できず

〔男子個人〕
土谷 有輝 (金沢) 四回戦進出

〔女子個人〕
藤井 大 (金沢) 四回戦進出

◎第51回 全国教職員剣道大会

8月10日(月) 大津市
〔石川県代表選手〕
長塚 美可子 (金沢) 三回戦進出
高島 なつみ (金沢) 二回戦進出

先鋒 中井 秀人
次鋒 宮城 島優
中堅 石井 敬
副将 榎 敏弘
大将 本橋 克也
一回戦敗退

〔各都代表選手〕
義務教育の部
上原 智光 一回戦敗退

高大教の部
安田 佳史 一回戦敗退

女子の部
下村 あずさ ベスト16

〔男子団体〕
鹿西中学校 予選リーグ敗退

〔女子団体〕
羽咋中学校 予選リーグ敗退

〔男子個人〕
栢田 拓真 (城南) 二回戦進出

瀧野 正基 (鳥屋) 一回戦敗退

〔女子個人〕
生瀬 早希 (津幡) 一回戦敗退

藤岡 さや (津幡) 一回戦敗退

◎第30回 北信越国民体育大会剣道競技

8月23日(日) 羽咋体育館
〔少年男子〕
石川 5 0 長野
石川 5 0 富山
石川 3 2 福井

〔少年女子〕
石川 4 1 福井
石川 4 1 長野
石川 5 0 富山

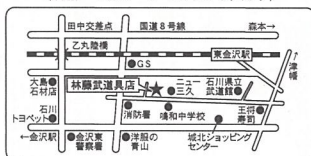
〔成年女子〕
石川 3 0 富山
石川 2 1 福井
石川 1 2 長野

〔成年男子〕
石川 1 0 石川
少年男子・少年女子は本国内に出場する

林藤武道具店

〒920-0803 石川県金沢市神宮寺町1番地83
Tel.076-252-2220 Fax.076-252-2240
E-mail:budou@po3.nsknet.or.jp

〔営業品目〕
剣道・柔道・空手・なぎなた・武道具全般
(刺繍・ゼッケン・ネームプリントも承ります)



武道具のハジメ

KIRI BRAND

金沢市上荒屋7丁目67 TEL 249-8233
〒921-8065 FAX 249-9139